

# 核防護不備、村山市長も怒りの見解 柏崎刈羽原発の一連の不正、不祥事について質問

一七日の一般質問で私は、柏崎刈羽原発をめぐる一連の不正、虚偽報告などを取り上げ、同原発の隣接自治体のトップとして、どう考えるかを質問しました。

この問題では一六日以来報道されている、長期間にわたった原発への侵入検知設備の核防護機能喪失についても触れながら、東電の運転管理能力や新型コロナウイルス感染症対策や豪雪時の対応などで困難を極めている避難計画づくりなどについて質問しました。

村山市長は答弁の中で、原発への侵入検知機能喪失については、「原子力発電所を運転する東京電力について、『ガバナンス（企業統治）、コンプライアンス（法令順守）』がど



う機能していたのか」ということに疑念を抱かざるを得ない。徹底した調査による原因究明と万全の対策を講じることを強く求めたい。「昔の学校なら、先生にどういわれるか。こういう体質の会社は歯がゆい」とのべました。

一方、年間80回にも及び資源エネルギー庁幹部の新潟訪問については、「梶山経済産業大臣が、事業者だけでなく国も前面に立ち、原子力について地元や国民の理解が深まるよう取り組むことが重要などのベ

ている。私はその通り受けとめている」と容認。私は「今年6月までに再稼働させたいという思いの中での訪問で異例だ。訪問では関係者と懇親会をやって盛り上がったとの報道もある。批判的に見るべきだ」と訴えました。

原発災害時にどう安全に避難するかという避難計画づくりは、新型コロナウイルス対策との矛盾や豪雪対応等ですます難しくなっています。私は、「（行政の研究会で）屋内退避を

して大丈夫だという結論が出る可能性はあるのか」と質問しました。これにたいして笠原防災危機管理部長は、「屋内退避で、いざバントがあった時に、（避難者の命と健康が）守られるという確証まではいまだとこころ得られていないという現状だ」と答えました。市民が安全に避難できる計画策定の見通しが



【キクザキイチゲ】（再掲）。キンポウゲ科の多年草。漢字で「菊咲一華」と書きます。子どもの頃、「オトコガタコ」と呼んでいました。花は3月～5月。薄紫色や白色の花を咲かせます。今年は雪のため、いつもより咲くのが遅くなりました。花言葉は「静かな瞳」「追憶」。写真は3月13日、吉川区代石にて撮りました。

かで、原発の再稼働は許されな

写真、笹原留似子さんの「おもかげ復元師の震災絵日記」（ポプラ社）の内容を紹介し、「災害対策を進める上で一番大切なことは命を守ること」と訴えた私です。

## 総務で雪対策強化訴え

今冬の豪雪の中で、上越市内では民家周囲の除雪や屋根の雪下ろしなどで死亡5人、重傷21人、軽傷34人と事故が多発しています。

私は12日の総務常任委員会審査の中でこの問題を取り上げ、「交通事故

故については交通安全計画を作り、年間死亡者を4人以内に抑える等の目標の元に取り組んでいる。雪に起因する事故は12月から3月までの短い期間にもかかわらず、多発している。市民の命を守るために、交通事故対策同様、雪に起因する事故防止対策の事業を大きな柱に位置付けて取組を強化すべき」と訴えました。

野口副市長は答弁の中で、「不幸な事故はあってはならない。死亡、重傷事故などを検証して次につなげていきたい」とのべました。

雪対策に関しては、もうひとつ、



展的に、この制度をどう発

影山自治・市民環境部長は、「私も大事な制度だと思っている。今冬の雪を振り返るなかで、この制度を

「この制度はたいへん重要な制度だが、高齢者が高齢者世帯の面倒を見るような感じになっている。地区以外の人々の力も借りる、7地区以外にも広げていくなどの見直しが必要ではないか」と訴えました。

冬期生活安全・安心確保事業についても取り上げました。上越市では中ノ俣・上綱子、牧区切光・鷲尾、吉川区下川谷など7地区11集落を対象に、集落内の生活道路の除雪や高齢者世帯など雪処理が困難な世帯の除雪などを集落に委託しています。しかし、高齢化などでこの事業の維持が困難となってきました。私は、

# はしづめ法一の活動レポート

No.2003 2021.3.21

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索



# 春よ来い

## 第六五〇回

### 鵜呑み

最初は何が起きていたのかわかりませんでした。小苗代の池の水面がざわつき、黒い鳥が激しく動いているくらいにしか見えなかったのです。

土曜日のちょうど正午くらいでした。カメラのズームを伸ばし、池ですいすい泳いでいる鴨の姿を撮影をしているときでした。鴨のすぐそばで突然、体長七〇センチほどの黒い鳥の賑やかな動きが画面に出てきました。何か捕りものをしているように見えます。こうなったら、鴨どころではありません、黒い鳥が何をやっているのか写真に収めたいと思いました。

大急ぎで車の中から三脚を出し、カメラを固定して撮影をしました。デジタルカメラの画面を見ると、黒い鳥のくちばしには魚が写っていました。それも、小魚ではありません。

黒い鳥がくちばしにはさんでいたのは、三〇センチほどの大きな魚でした。魚はおそろしく鯉だと思えます。魚を逃がすまいとくちばしで必死になって押さえている鳥、かたや、逃げようと盛んに体を揺さぶり動かし、逃げる魚の姿がそこにありました。そして最後は、何ということでしょう、黒い鳥は大きな魚を丸ごとくちばしから喉へと呑み込んだのです。

撮影したのはほんの一、二分です。興奮しました。カメラを三脚で固定していなかったらおそろしく、すべての写真が大きくぶれたものとなつたでしょう。このとき撮った写真は六、七枚です。三脚を使ったとはいえず、やはり動揺していたのでしょうか、いずれの写真も鮮明画像にはほど遠いものでした。それでも黒い鳥と魚の格闘は写真にしっかりと残っていました。

正直言って、私は鳥のことについてはまったくの素人で、黒い鳥は鵜(う)に似ているくらいしかわかりませんでした。魚を呑み込む鵜は長良川近辺にしかないものと勝手に思っていました。

のと勝手に思い込んでいました。だから、カメラに収めた黒い鳥が鵜であることに気づくまで時間がかかりました。

はつきりと鵜であることがわかったのは、パソコンに画像データを映し出してから。鴨とは明らかに違う黒い体、一〇センチほどの長いくちばし、くちばしの黄色い基部を見て、これは川鵜(かわう)に間違いなしと確信しました。

そして撮った写真を時系列で並べて見たところ、魚を捕まえた時から魚の位置を直し、呑み込むところまでの過程がよくわかりました。あれよあれよと言う間に魚をまるごと呑み込んでしまう姿は強烈な印象となって残りました。言葉でなく、実際の「鵜呑み」と出合ったのは初めてでした。

私は、子どもの頃、蛇がカエルを呑み込む様子を見たことがあります。その時の怖さはいまでも忘れることができません。今回は蛇ではなく鳥ですが、生き物を呑み込むときの怖さは共通でした。何か見てはいけないものを見てしまった気がしました。

この日、小苗代の池で見たことを私はインターネットで発信しました。川鵜が魚を呑み込む様子を初めて見たのは私だけではありませんでした。写真を見た何人もの人が、「この写真、うのみにしていいんですか」「自分の首よりも太い魚をどうやって呑み込むの」などといったコメントを寄せてくださいました。

初めて見た「鵜呑み」ですが、じつは、この話には続きがあるのです。呑み込むとした魚を別の鵜が奪おうと争いを始めたのです。鳥と魚のみならず、鳥と鳥の間でも激しい生存競争があるのですね。

近年では鵜が増えすぎて、川や池の魚類がたいへんな事態になっていることも初めて知りました。どうあれ、貴重だとかめずらしいだとか言ってもいいはいられないようです。勉強になりました。

## 活動レポートの綴りが2冊目に

### ニュースフラッシュ

うちの屋敷裏の万作が満開です。いつもレポート、うれしく拝読させていただきます。

市政の報告、「春よ来い」の私はNO1544から綴っています。NO1954からは2冊目の綴りになりました。1冊目の綴り、重さは?とばかりしてみました。何と2キロ500グ

ラムありました。

私は心臓の手術をして2年目です。病気ばかりで、くじけています。まだ死にたくないです。孫たちの成長を楽しみに頑張ります。活動レポート、これから楽しみにお待ちしております。

(Tさんからの手紙より)

## 今定例会より飛沫防止パネル設置

新型コロナウイルス感染症対策として、今定例会より市議会本会議場に飛沫防止パネルが設置されました。

設置場所は議長席、議長席の前の発言席、議員側の質問席の3か所です。

イラストは15日の一般質問初日の質問風景です。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月10日(水)	3月17日(水)
上越南消防署	0.053	0.043
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.050
高士分遣所	0.063	0.053